

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01544

研究課題名(和文) 地理的表示(GI)を活用したSDGsに寄与する農業と農村振興に関する日欧比較研究

研究課題名(英文) Comparative Study between Japan and Europe on Agriculture and Rural Development Contributing to the SDGs by Utilizing Geographical Indications (GI)

研究代表者

木村 純子 (Kimura, Junko)

法政大学・経営学部・教授

研究者番号：00342204

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はテリトリー戦略がどのような要件で競争優位性を生むのかをイタリアと日本の事例から明らかにした。第1は自社の目的と地域目的(持続可能性)の共通化である。イタリアの農産物・食品の生産者は地域に生かされている、地域の持続可能性が自社の持続可能性であると考え、地域との共存を目指すことから、地域に根ざした(embedded)農業を実践する。第2は住民のテリトリー教育である。第3はネットワークによるテリトリー・アイデンティティと地域コミュニティの形成である。第4は、農業の多機能性による持続可能なフードシステム作りである。イタリアの農業は、経済と非経済のバランスを取ることで豊かな社会を実現する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、持続可能な社会文化的テリトリーを実現する手がかりを提示した。持続可能な社会の実現のためには、テリトリーが経済的・社会的に自立する必要がある。イタリアは、マクロな次元では外部経済価値、特に自然環境保全を組み入れた政策の策定、メゾな次元では産業セクターや行政区分を超えた地産地消型で循環型のバリューチェーンを共同で構築する主体の関係形成、ミクロな次元では各主体の個別活動やプロジェクトをネットワーク化し構造化することで、テリトリーのアイデンティティを創りだす。都市、農村、歴史、政策、原産地呼称保護、ショートサプライチェーンといった観点から持続可能なテリトリーにアプローチした。

研究成果の概要(英文)：This study clarifies from the Italian and Japanese cases what requirements for a territorio strategy to create a competitive advantage. The first is the commonality between the company's own objectives and regional objectives (sustainability). Italian producers of agricultural and food products believe that they are supported by the local community and that the sustainability of the local community is the sustainability of their own company, and they aim to coexist with the local community, thus practicing embedded agriculture. The second is territory education of the local residents. The third is the formation of a territorio identity and local community through networking. The fourth is the creation of a sustainable food system through the multifunctionality of agriculture. Italian agriculture achieves a prosperous society by striking a balance between economic and non-economic factors.

研究分野：テリトリー

キーワード：テリトリー 地理的表示保護制度 都市と農村の交流 地域活性化 内発的發展

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、効率性、利便性、機能性を追求してきた 20 世紀の資本主義を基礎にした経済活動および学術的研究の限界を解決する新しい文明論を提言することを目的にした。持続可能で安定的な社会を創造するためにはレジリエンスな構造を持つ生産と消費の仕組みを理論的かつ実務的に構築する必要がある、ことさら日本においては疲弊し衰退する地域の内発的発展を促す農村経営のロジックを学術的に検討し提示することが急務である。そこで、本研究は、経営学やマーケティングの既存の理論枠組みでは十分に解決できない地域活性化に関わる、都市と農村のバリューチェーンによる地域の産業基盤の構築が実現する地域活性化の新しい理論モデルを構築するために、建築史、法律、政策、経営学、文化、歴史という多様な学問分野と枠組みを用いた学際的・国際的共同研究を実施することにした。

2. 研究の目的

本研究は欧州と日本という文化的、制度的、社会的に異なる国での地理的表示に関わる農業活動、ならびに独特の地域構造と資源価値の再定義によって、観光客を惹きつける農村マネジメントの SDGs に関わる理論を体系化し具体的モデルを提示し目標達成を評価するための指標を構築する。

農村(田園)の資源価値を再発見・再定義しそこで実践される農業活動はどのように SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献できるのかを明らかにする。これが本研究課題の核心をなす学術的「問い」である。いわゆるスマート農業や ICT 等によって効率化するのではなく、非効率といわれる農村の営みの機能を整理し SDGs の文脈で価値を再検討することで既存理論が説明できない地域ポテンシャルを高める新たな理論を提示する。

3. 研究の方法

第 1 に、文献調査において研究に必要な資料や文献の収集を行い、関連分野の包括的かつ詳細なレビューを行った。具体的には、農業経済学、農業経営論、ツーリズム、および地域活性化などの関連する研究蓄積を抽出し、それらに対して体系的なレビューを行うことで、鍵概念に関する理論的な理解を深めた。

第 2 に、日本とイタリアにおける特定の農業に従事する人々、GI 登録団体、自治体、省庁に対してインタビュー調査を行う。また、両国における地域活性化のための政策担当者に対しても積極的にインタビューを実施し、日伊の文化が生む農業経営および農村マネジメントの差異に関する手がかりを得る。これらの活動によって SDGs 達成のための経済価値、社会価値、環境価値を基盤とした農村マネジメント戦略の認識と考え方やそれを推進する意義を確認し、それらの文化的多様性について鍵概念間の関係を整理しながら明らかにした。

調査にあたっては、国内では研究代表者と研究分担者の人的および組織的ネットワークを使い、研究代表者がすでに実施して関連主体からの信頼を獲得している調査対象三島馬鈴薯に関する調査を実施した。海外では研究代表者の 2 年間のイタリア滞在および研究分担者陣内秀信の 7 年間のイタリア滞在中で構築した人的ネットワークを活用し効率的かつ効果的なデータ収集を実施することができた。具体的にはトスカーナ州のアミアータが対象地となった。

4. 研究成果

本研究はテリトリー戦略がどのような要件で競争優位性を生むのかをイタリアと日本の事例から明らかにした。

第 1 は、自社の目的と地域目的(持続可能性)の共通化である。Porter, et.al.(2011)が提唱した共通価値創出(Creating Shared Value: CSV)のとおり、イタリアの農産物・食品の生産者は地域に生かされている、地域の持続可能性が自社の持続可能性であると考え、地域との共存を目指すことから、地域に根ざした(embedded)農業を実践する。後押しするのは EU の農業政策である。農村を生産の場でありつつ生活の場ととらえ、まずは地元の市場と消費者に仕える。そのため、共通農業政策(Common Agriculture Policy: CAP)の補助金は、農業ではなく農村を対象にする比率が増している。

第 2 は、住民のテリトリー教育である。住民、すなわち消費者はテリトリー教育を受ける機会に恵まれ、地域に根ざした農業活動によって育てられた農産物・食品を購入・消費することが大切であると理解している。テリトリー教育では農業の多機能性も学ぶ。

第 3 は、ネットワークによるテリトリー・アイデンティティと地域コミュニティの形成である。生産者、住民、ステークホルダーら地域の主体はネットワークを形成し、協力しあいながら GI の生産と販売をつなぐテリトリーの共有財を再発見し、活用し、新たな意味を付与することでテリトリーのアイデンティティを形成することができる。コモンズの精神が基層にあることから、異なるセクターの主体の水平的関係のみならず、地方行政、GI 登録団体、農業従

事者らの垂直的關係においてもステークホルダーは信頼とネットワークを形成し、協働活動で地域コミュニティを守ろうとする。

第4は、農業の多機能性による持続可能なフードシステム作りである。イタリアの農業は、経済と非経済のバランスを取ることで豊かな社会を実現する。豊かな社会の源泉は農業の多機能性である。

重要な概念はテリトリーオである。テリトリーオは「地形・地質、水や緑の生態系などの自然条件の上に、人々の手になる農業の営みやそれが結実した景観があり、町や村の居住地に加え、農場、修道院が点在する。その総体」(陣内, 2019, p.13)であり、都市、集落、田園の「1つの共通の社会経済的・文化的アイデンティティをもつ地域」(陣内他, 2019, p.2)と定義される。

テリトリーオ活性化によって農村に輝きを取り戻すことに成功した国としてイタリアが挙げられる。農業経営は地域の地形と歴史に深く結び付いているという主張にならない、コモنزの精神を持つ関連主体が地域の社会関係資本を再発見・活用しプロジェクト活動を通じたボトムアップ型共同行動でテリトリーオの文化的アイデンティティを形成し、経済・社会・環境価値を生み出す。成果として2022年3月に白桃書房より書籍『イタリアのテリトリーオ戦略：甦る都市と農村の交流』を出版した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 須田文明	4. 巻 23
2. 論文標題 フランスにおける資本主義的農業発展の複数の道：脱炭素化蓄積体制をこえて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 総合政策	6. 最初と最後の頁 75-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 須田文明	4. 巻 秋号
2. 論文標題 フランスの「全国食料計画(PNA)」とPATの背景と思想」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農業と経済	6. 最初と最後の頁 202-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kimura Junko, Rigolot Cyrille	4. 巻 13
2. 論文標題 The Potential of Geographical Indications (GI) to Enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan: Overview and Insights from Japan GI Mishima Potato	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 961～961
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/su13020961	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 木村純子	4. 巻 232
2. 論文標題 イタリア農業の底力：アミアータのテリトリーオ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法政大学イノベーション・マネジメントワーキングペーパー	6. 最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村純子	4. 巻 347
2. 論文標題 テリトリー・アプローチによる農村の内発的発展：トスカナ州アミアータ・テリトリーオの事例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市計画学会特集号	6. 最初と最後の頁 78-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村純子	4. 巻 66(2)
2. 論文標題 酪農とSDGsとの関わりによる豊かな社会の実現	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本草地学会誌	6. 最初と最後の頁 111-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村純子	4. 巻 38(2)
2. 論文標題 SDGs達成のための酪農セクターの貢献	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 農村計画学会誌	6. 最初と最後の頁 90-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jinnai, Hidenobu	4. 巻 3(3)
2. 論文標題 The locus of my study of Tokyo: From building typology to spatial anthropology and eco-history	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japan Architectural Review: International Journal of Japan Architectural Review for Engineering and Design	6. 最初と最後の頁 271-283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/2475-8876.12167	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陣内秀信	4. 巻 2018年度
2. 論文標題 テリトリーオの概念について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法政大学エコ地域デザイン研究センター2018年度報告書	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣内秀信	4. 巻 57
2. 論文標題 日本人は80年代以後のイタリア文化をいかに受容してきたか - 都市の魅力とテリトリーオの豊かさの視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日伊文化研究	6. 最初と最後の頁 2~14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須田文明	4. 巻 91(1)
2. 論文標題 争点としての家族農業経営継承：歴史的使命を終えた？フランス農業構造政策	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 農業経済研究	6. 最初と最後の頁 89-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11472/nokei.91.89	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 須田文明	4. 巻 1
2. 論文標題 フランスの山岳地酪農における高付加価値化の条件 AOPチーズ、カンタルとコンテの比較から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 令和元年度カントリーレポート：米国，EU(CAP)，フランス，英国，CETA，ロシア	6. 最初と最後の頁 1~20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 陣内秀信
2. 発表標題 地中海地域と西アジアとの比較都市論 空間人類学の視点からー
3. 学会等名 文部科学省新学術領域研究「都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hidenobu Jinnai
2. 発表標題 Nuove tendenze nella ricerca sulla storia urbana in Giappone
3. 学会等名 Aisu International lectures(Associazione Italiana di Storia Urbana) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hidenobu Jinnai
2. 発表標題 Reading the Urban Landscape of Tokyo: Topography and History
3. 学会等名 DOCOMOMO国際学生ワークショップ・レクチャー (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 陣内秀信
2. 発表標題 今、真の都市再生とは？ 自然・歴史・コモنزの視点から
3. 学会等名 第46回 法政大学大学院まちづくり都市政策セミナー (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hidenobu Jinnai
2. 発表標題 Tokyo as a water city seen from spatial anthropology
3. 学会等名 The training course “Beyond Museums. Tools for promoting the natural and cultural water heritage (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 陣内秀信
2. 発表標題 チェントロ・ストリコからテリトーリオへ
3. 学会等名 法政大学イノベーション・マネジメント研究センターシンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 陣内秀信
2. 発表標題 水都東京 水から読みとく都市・自然・人間のむすびつき
3. 学会等名 第3回東アジア都市史学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 陣内秀信
2. 発表標題 東京に秘められた水都としての可能性
3. 学会等名 江戸東京歴史文化ルネッサンス設立3周年記念シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Jinnai, Hidenobu
2. 発表標題 I ventennali risultati di un progetto di ricerca: dal centro storico di Amalfi alla Costiera Amalfitana
3. 学会等名 Convegno di studi: Le 'Citta dell'acqua' sulle Coste d'Amalfi e Venezia. Valori, immagine, progetto, Amalfi (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 木村純子・陣内秀信編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 白桃書房	5. 総ページ数 374
3. 書名 イタリアのテリトリー戦略	

1. 著者名 木村純子 (田中洋編著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 同文館出版 (株)	5. 総ページ数 274
3. 書名 ブランド戦略ケースブック2.0	

1. 著者名 木村純子、中村丁次、一般社団法人Jミルク編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 318
3. 書名 持続可能な酪農	

1. 著者名 飯田 恭子・浅井真康・市田知子・須田文明	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑波書房	5. 総ページ数 248
3. 書名 集まって話しあう 日本とヨーロッパの地域づくり	

1. 著者名 陣内秀信	4. 発行年 2021年
2. 出版社 古小烏舎	5. 総ページ数 256
3. 書名 都市のルネサンス	

1. 著者名 陣内秀信・三浦展	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 中央線がなかったら 見えてくる東京の古層	

1. 著者名 陣内秀信	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 334
3. 書名 水都東京 地形と歴史から読みとく下町・山の手・郊外	

1. 著者名 陣内秀信	4. 発行年 2020年
2. 出版社 鹿島出版会	5. 総ページ数 536
3. 書名 イタリアの中世都市 アゾロの都市から領域まで	

1. 著者名 陣内秀信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 416
3. 書名 興亡の世界史：人類はどこへ行くのか	

1. 著者名 陣内秀信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中国建筑工並出版社	5. 総ページ数 268
3. 書名 東京的空間人類学	

1. 著者名 陣内秀信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 NTT出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 アナザーユートピアー「オープンスペース」から都市を考える	

1. 著者名 陣内秀信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 鹿島出版会	5. 総ページ数 440
3. 書名 建築史への挑戦??住居から都市、そしてテリトリーオへ	

1. 著者名 陣内秀信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 284
3. 書名 新・江戸東京研究 近代を相対化する都市の未来	

1. 著者名 陣内秀信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 彰国社	5. 総ページ数 128
3. 書名 江戸東京の都市組織に挑む - 上野・本郷・谷中・根津・下谷	

1. 著者名 Jinnai, Hidenobu	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Fondazione OAMi	5. 総ページ数 212
3. 書名 Giancarlo De Carlo and ILAUD. A Movai Frontier	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	陣内 秀信 (Jinnai Hidenobu) (40134481)	法政大学・江戸東京研究センター・研究員 (32675)	
研究 分 担 者	須田 文明 (Suda Fumiaki) (70356327)	農林水産省農林水産政策研究所・その他部局等・研究員 (82625)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関